

インドの医療・病気について



2014年3月12日

WellBe Medic (India) Pvt. Ltd.

講師紹介



Dr. Misako Matsumaru
Speciality: General Medicine

インドマニパル大学医学部を卒業後、日本の国際医療センターにてHIV研究を行い、インド、日本、タイでの臨床経験を経て現在は海外渡航者医療に従事。

専門は『総合診療科』※

※『総合診療科』

総合診療科とは、診断のプロとして広い知識を持ち、どの診察かを受診すれば良いかわからない患者さんの窓口として機能する科目。

本日の流れ

- ★日本とインドの医療の違いについて
- ★インドで罹患する病気とその対策
- ★まとめ
- ★質疑応答

日本とインドの 医療の違いについて

日本の医療

国民皆保険・・・経済力による医療の差はわずか

医療費の均一化・・・どここの医療機関でも同じ医療費

窓口での請求額は治療費の3割

公的保険による健康管理制度・・・健康診断、予防接種の普及

医療へのフリーアクセス・・・救急車無料、夜間救急対応の地域差はわずか



平等な医療

インドの医療

富裕層

世帯年収
125万Rs(250万円)以上
1.3%=1600万人

私立病院

中間層

世帯年収
25万Rs(50万円)以上
13%=1.5億人

私立クリニック

低所得層

世帯年収
11万Rs(22万円)以上
29%=3.5億人

ナーシングホーム

貧困層

世帯年収
11万Rs(22万円)未満
57%=6.7億人

公立医療機関
(無料)



私立病院

...

インドの富裕層が利用
日本人もこの病院を利用する

主要都市に集中



5つ星ホテルの様な環境

欧米等で経験を積んだ医師



医療ツーリズムで患者を海外より呼び寄せる

公立医療機関

...

都市には大病院、農村部にはサブセンターを配置。原則無料

原則無料

経験豊富な医師

大量の貧困者で溢れている

外観や衛生面、設備投資が遅れている



私立病院は中型、大型、高級志向、富裕層・一般向け、専門性の特化と各病院で特色を打ち出している・・・。

ただし、日本の医療を基準に考えると、インドの病院はホスピタリティの面で遅れがみられる

日本人がインドの医療を 利用する上で発生する問題点1

情報不足

...

- ・病院、医師の選別ができない。
- ・緊急時医療へのアクセス方法分からない
- ・インド特有の病気に対する予防知識がない
- ・インド人社員等による誤った情報
- ・発展途上国というイメージからのインド病院に対する不信感、不安感

言葉の壁

...

- ・医療現場での英会話に支障が起きる
- ・医師の説明が納得できるまで理解できない
- ・帯同家族の病院受診時の英会話
- ・交渉力、Noと言えないと必要以上の治療を受ける場合がある。Noと言いすぎて適切な治療を受けられず病状が悪化する。

日本人がインドの医療を 利用する上で発生する問題点2

遠隔地医療

- ・都市部より離れた工業特区地に駐在する日本人は高度な救急医療を受ける事ができない

メンタルケア

- ・心療内科がない
- ・精神科に行く事を躊躇する。文化の違いや言語の問題、会社に知られたくない等。

継続医療

- ・日本で受けている持病の治療をインドでも続けられるかが分からない。
- ・アジア近隣諸国で検診を受け薬を処方されるが、医師のアフターフォローがない

日本人がインドの医療を 利用する上で発生する問題点3

高額医療費 ...

- 日本の医療レベルに照らし合わせた場合に割高なものもある。
- 入院、手術の際の医療費支払い能力の確認デポジットを求められる。

日本とインドの医療の違いについて ~まとめ~

- ◆事前の健康管理が大変重要
- ◆企業は社員をハードシップの高い国に送る
ならば、社員の健康管理を担う責任がある
- ◆病気や負傷が重篤化しないために、
『どこの』『誰に』『何を』『どこまで』頼めば
良いかを判断できる医療関係者や機関を
把握しておく必要がある。
- ◆重篤な病気や負傷にならないため予防策
を立て、実行する

インドで罹患する 病気とその対策

インドで多い病気

インド在住の日本人外来で頻繁に見られる病気は、感染症・生活習慣病。
近年は精神疾患も増加



インドで多い病気

感染症

- ▼病原体(ウイルス、細菌、カビ、寄生虫等)が身体に入って増殖し病気を発症する。
- ▼感染経路は、空気、水、食べ物、媒介動物(感染している犬、蚊、感染者)との接触



感染症

①呼吸器感染症 …… 風邪症候群、インフルエンザ、肺炎

▼海外の医療機関を受診する日本人の病名として常に上位。
インドの場合、特にデリーは空気が乾燥しているので
湿度の高い南部に比べ患者数が非常に多い。

乾季：汚れて乾燥した空気にさらされて目や鼻や
喉の粘膜が傷つきウイルスや細菌が繁殖

雨季：湿気によるカビの繁殖。カビの胞子を吸い
込みアレルギー症状を起こす。

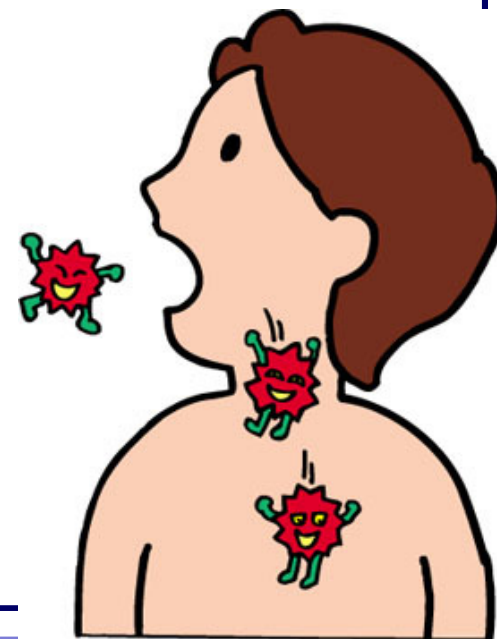
予防：皮膚、粘膜を乾燥させない。

うがい・スチーム・保湿

ほこり・粉塵・ハトの糞の除去。

エアコン洗濯機のカビの除去。

使わない部屋の換気 等



インドでは掃除は人任せになる
メイドは表面的な掃除しかしない



指示してメイドを使いこなせるようになる事

※デリーで発症したケース

ハトの糞にカビが繁殖し、その粉塵を吸い込みカビによる
髄膜炎を発症。ICU入院。

長期化して気管支炎が引っ越しで治るケースもある。
まず、職場や自宅内の掃除を徹底する

感染症

②経口感染症 …… 旅行者下痢症(食中毒)、A型肝炎、腸チフス

▼飲食物から感染する。インドでのリスクは高い。
旅行者下痢症はインドに1か月滞在した場合、頻度は最低でも30%
病原体は大腸菌、サルモネラ菌、キャンピロバクター、寄生虫

予防: 危険食物を摂らない(生もの、生焼け肉、サラダ、ハンバーガー、
皮のむかれた果物、イチゴ、半熟卵、水道水、牛乳、
アイスクリーム)
現地人ばかりのレストランに行かない。
無症候キャリア※の予防
ワクチン接種。A型肝炎、腸チフスには有効



※保菌者だが病気の症状が出ていない人。ウイルス、細菌、寄生虫は保菌者の便に
排出される。寄生虫感染者で下痢などの症状がでるのはわずか10%
調理をする人(サーバント等)は定期的な便検査、血液検査が必要

感染症

③蚊に媒介される感染症・・・デング熱、マラリア、チクングニア等

▼デング熱は建設工事が増えると発生が増加する。
雨季の後の水たまりで蚊は発生し、ウイルスを運ぶ。
都市部、開発地域で発生しやすいのでリスクはなり高い

予防：工事現場や湖等水の多い所に住まない。徹底した虫よけ対策。
重症化を防ぐには高度医療機関での入院が必要になるので私立病院の高額な医療費をカバーする為の保険加入は必須。
(毎年9月、10月の私立病院一般病室はデング患者で満室になる。高額な個室・ICUの料金は海外旅行保険でカバーされます)



※インド都市部でのマラリアの危険度は低い。
危険度の高い地域に行く場合は予防内服を行うこと。

感染症

④性行為感染症・・・尿道炎、B型肝炎

- ▼B型肝炎は性行為や傷口に感染者の血液がついて罹患する。
ワクチン接種で予防可能だが、2%程の人にワクチン接種後も抗体ができない場合があるので健康診断等でB型肝炎抗体チェックをしておくといい。
- ▼尿道炎は病院受診率が低く、抗菌薬投与を自身で行って治そうとする人が多い。抗菌薬の乱用から多剤耐性菌を生んでしまう事がある。

※行動パターンにより感染リスクが高くなる



抗菌薬の使用方法 ... 抗菌薬は原因菌によって処方が変わるのので、自己判断は危険です。

危険な服用例

- ▼ローカルスタッフに勧められた
- ▼会社から渡された
- ▼インターネットで調べ、症状が似通っていたので購入、服用した
- ▼症状が治まったので途中で服用を止めた
- ▼服用機関が分からないが飲み続けた



▼体の中で抗菌剤が効かない**多剤耐性菌**を作り出す。

こうして生まれた耐性菌が抵抗力の無い病人や子供にうつり病気を発症すると治療が大変困難になる。

感染症

⑤動物からの感染症・・・狂犬病

▼野良犬、サル、こうもり、ネズミ、牛、ウサギ等あらゆる哺乳類が狂犬病ウイルスを持つ可能性がある。

予防：動物に咬まれる、傷口をなめられる、くちびるや目の粘膜に動物の唾液が付いた場合はよく水で洗い、その日のうちに病院を受診する。
咬まれた後にワクチンを接種する事で狂犬病で防げる。



インドで多い病気

生活習慣病・・・高血圧、糖尿病、高尿酸値、心筋梗塞、脳梗塞

- ▼生活習慣病の罹患はインド駐在員にも頻繁に見られる
- ▼自覚症状がない為治療を怠りがち、ある日突然心筋梗塞や脳梗塞を発症する。一番たちの悪い病気。

原因

- ▼外食中心の食生活、高カロリー・高脂肪
- ▼頻繁な会食や飲酒量の増加
- ▼車社会で運動不足
- ▼駐在員の高齢化により既に発症している人も多い。
- ▼インドでの医療機関受診を躊躇して治療が中断し悪化

※デリーで発症したケース

駐在終了一か月前に脳梗塞を発症。駐在中は医療機関を受診せず治療を中断していた。
本人曰く、日本に戻ってから治療を始めるつもりだった

予防：健康診断をきちんと受ける。自身の健康状態に目をそむけない。
異常を早期発見し生活習慣の改善が必要であることを自覚する。
継続治療を相談できる医療機関の確保。
体重計、血圧計等で自身で測定する習慣
運動をするサークルに加入する。



まとめ

まとめ

予防の情報収集

- ▼インドでは日本国内に無い感染症が存在する。
- ▼感染流行に関する新しく正しい情報を客観的に集める。
- ▼日本人社会内では不安から誇張された、または間違った情報が流れる可能性もある。
- ▼講習会、勉強会への参加
- ▼日本人会、商工会、大使館からの情報

参考となるウェブサイト

- ▼外務省(在外公医療官情報) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- ▼国立感染症研究所感染症情報センター <http://idsc.nih.go.jp/>
- ▼ProMED(世界の感染症情報) <http://www.promedmail.org/>

まとめ

予防の環境整備

- ▼インドには健康管理や病気予防を目的とした法規則が無いので福利厚生を利用した社員の健康管理をしっかり行う。
- ▼現地インド社員を含めた健康診断の推進
- ▼シーズンごとに罹患率の増える病気への注意対策
- ▼適切なワクチン接種プログラム
- ▼ITコミュニケーションによるカウンセリングの実施
- ▼調理場、トイレ等の衛生環境改善

ご清聴
有難うございました

質疑・応答